



なぜ

ミミズ乾燥粉末

にこだわったのか—



有限会社輝龍 会長
石井陽一氏

コンポスト観察実験がきっかけ

ミミズ乾燥粉末を使用することになった経緯ですが、ミミズによるコンポスト(堆肥)の処理を目的とするエコロジーの観察実験をしていた過程がきっかけです。観察していた箱飼いのミミズが逃げ出し、乾いたところでは干乾び、水気のあるところでは死んで溶け出しているのを見て、「(ミミズは)死んだタンパク質を溶解するのでは」と推測しました。そこで、線溶活性の有無の実験をした結果、ミミズには線溶活性酵素を保有していることが分かりました。

医科大学で自らミミズ抽出末の投与試験を実施

さらに、効能効果の実証実験に対し、最初は乾燥粉末を作り、投与実験を私自身が直接、安全性確認等を確認していました。漢方薬では、ミミズは解熱剤として、ミミズを陰干して煮詰めたものを使用していましたので、「次は抽出末ではどうか」という話になり、医科大学の研究室で精製した無菌の抽出末での投与実験を試みることになりました。乾燥粉末ではなく抽出末の投与試験は、世界でも試みたケースはなく、危険の伴う実験でした。しかし、誰も参加する人がいなかったこと、万が一の場合でも医科大学のさまざまな診療科があるので大丈夫とのことだったので、私が世界で初めて意を決して実施しました。

対象者の身体状態が確認できなければ投与量の決定は無理

その結果は悲惨でした。投与直後、乾燥粉末投与とは、まったく違う反応を示し、10秒も経たないうちに目の周囲が真っ赤になり、身体が火照る感じがしました。抽出末は薬と同じですので、投与する対象者の身体の状態が確認できなければ投与量を決定するのは無理であることが分かりました。結論として、「健康状態が確認できなければ安全性を欠く」と判断しました。

この経験から、エビデンスの実験は、**ミミズ乾燥粉末とミミズ抽出末での実験経緯を考慮しますと、乾燥粉末を使用した方が安全である**ことが分かりました。その後、人に投与する実験は、抽出末ではなく、すべて乾燥粉末を使用したデータです。

投与時の身体状態が不明でも安心な乾燥粉末

ミミズ乾燥粉末の場合は投与し、消化経路を通る間にあらゆる消化酵素で分解され、身体自身が吸収するものを選択できます。投与の際の身体の状態が不明でも安心できますので、対象者が年齢、性別も関係ない場合でも安心・安全です。

また、ミミズ抽出末は湿気に弱い性質がありますが、その点、ミミズ乾燥粉末は湿気に対しても取り扱いが容易で、含有している酵素の変化もありませんので、取り扱いも難しくないとところが利点です。

有効成分の一部でなく全てで健康の維持・増進を

また、ミミズ抽出末がミミズの保有する有効成分の一部である点に対し、ミミズ乾燥粉末の場合、ミミズの保有する全ての有効成分を含有しています(図参照)。これまでに取得した当社のミミズ乾燥粉末の用途特許でもわかりますが、ミミズ乾燥粉末を摂取することで、体内で何が今、必要かを選択でき、自身では気付かない疾患の起因に対するの改善がなされることが期待できます。私は、それ以来40年以上、飲み続けています。

今後も生き物同士の共存を視野にミミズの研究を継続

今後もミミズの生存環境の観察研究が進めば、人の命に係わる新たな有効成分が見つかるものと期待をしています。ミミズの研究は地味で、毎日コツコツとゆっくり進展していますが、ミミズが人間に与えるものは偉大で神秘性があることを信じています。ミミズの研究は止まる時がありません。

■ミミズ乾燥粉末とミミズ抽出末の製造工程

